



本日はよくお参り下さいました

先月は週末が二回台風に見舞われ、大変な思いをされた方も多いかと思います。被害を遭われた方々には、心よりお見舞いを申し上げます。また、2回目の台風の翌日、10月30日には、すみれ会の皆さんが境内清掃をして下さり、台風で落ち葉だらけだった境内の内外が、きれいさっ



ぱりと、清浄な状態になりました。すみれ会の皆さんに、この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございます。さて、11月といえば七五三の季節です。週末の境内は、晴着を着た子どもたちで、とても賑やかになります。楽しい思い出はもちろん、ご神前で神聖な気持ちでお参りしたことも、記憶に残りますように、と思いながら、ご奉仕をさせて頂いております。今月も皆さまのご多幸を心よりお祈り申し上げます。権禰宜道子

11月

1日・15日 月次祭(つきなみさい) 皇室の弥栄と国家安泰、氏子崇敬者並に社会の幸福と平和を祈ります。

3日 文化の日(明治節)もとは近代日本の礎を築いた明治天皇のお誕生日(旧暦9月22日)です。崩御されてからは、普通の日になりましたが、国民の請願運動が起り、2万人の署名により、昭和2年の3月3日「明治節」に制定されました。戦後新憲法公布と重なり「文化の日」になりました。

7日立冬(りっとう) これから冬に入る初めの節。

15日七五三

22日小雪(しょうせつ) 寒さもまだ厳しくなく雪まだ大ならずの意味。

23日 勤労感謝の日・新嘗祭(にいなめさい) 「新嘗祭」は「しんじょうさい」ともいい、「新」は新穀を「嘗」はご馳走を意味します。この日、宮中では天皇陛下が感謝をこめて新穀を神々に奉るとともに、陛下御自らも召し上がります。新嘗祭の起源は古く、『古事記』にも天照大御神が新嘗祭を行ったことが記されています。※当社では11月25日に行います。



天神さまの豆知識

―七五三について―

十一月十五日、三歳の男女児、五歳の男児、七歳の女児が神社へ参拝する七五三の行事が全国で営まれます。子どもの無事な発育を喜び、なおいっそうの成長を願って晴着を着せ、神社・氏神などに詣でる行事です。

古くは「七歳までは神の子」と言われていたように子供の霊魂は不安定で、しっかりした子どもにもなるよう繰り返し祈りました。

十一月十五日に祝うことになったのは、江戸時代で、この日が、当時使われていた、吉凶判断の二十八宿のうち、鬼宿日(きしゆくにち)にあたり、何事の祝いにも最良の日であったとされたことによります。さらに十一月は秋の実りを産土神に感謝する月であり、その祭りの日に、満月の十五日(旧暦)が選ばれるのも、ごく自然なことです。

産土神・氏神に収穫の感謝かたがた子どもの成長を感謝し、祈ったのが七五三の行事と言えるでしょう。

参考文献『神道としきたり事典』茂木貞純監修 二〇一四年(株)PHP研究所発行

『現代こよみ読み解き事典』柏書房発行



今月の言葉

『吉凶は人により、日にあらず』

兼好・徒然草

暦は、日読(ひよみ)だという。暦には昔から今日は吉の日、凶の日と定められている。しかし実際は、人により違いがあるように暦の日取りによって人生が決まるのではない。その人の心の持ち方によって吉凶は生まれてくるのだといえる。自分の心は神の心のうつしである。自分を磨くことは、神の心を自分のうちで磨くことであると考えられる。参考文献『続神道百言』岡田米夫著 神道文化会発行